

明治聖德記念學會紀要(復刊) 総目録

第一号～第五十号

明治聖德記念學會事務局 編

復刊第一号（昭和六十三年十一月五日）

【講演】

宗教学から見た神道

柳川啓一

明治文化の結実としての「教育勅語」

勝部真長

【論文】

藤樹學——その展開深化と日本主義——

森田康之助

初詣の実態研究序論

——戦後の神社神道の変容の解明に向けて——

石井研士

復刊第二号（平成元年十一月十日）

【講演】

幕末維新期の日本人

山口宗之

憲法発布一百年

村尾次郎

【史料】

「神社改正之件」に関する史料の翻刻と解説

新田 均

【論文】

大嘗祭の本義をめぐる研究史

岡田莊司

復刊第三号（平成二年十月二十日）

【講演】

鏡をまつる

谷 省吾

維新の心

杉田幸三

【論文】

「对支新政策」の決定と若杉参謀（三笠宮）の中国派遣

柴田紳一

天書の性格について

白山芳太郎

仏教徒の教育勅語衍義書について

——特に真宗系を中心に——

三宅守常

復刊第四号（平成三年七月三十日）

【講演】

国会開設百年

伊藤 隆

大嘗の祭り

岡田莊司

【論文】

王位継承と憲法

吉川 智

倚廬渡御成立過程の基礎的研究

渡部真弓

近世の新嘗祭とその転換

阪本是丸

復刊第五号（平成三年十月十九日）

【研究発表】

儒葬より神葬へ

近藤啓吾

【論文】

大教院の教化基準

——教典訓法章程と教書編輯条例を中心に——

高橋陽一

今、神の社ヤシロ・モリを守るために

伊東静雄『春のいそぎ』考

——〈公〉への促しと〈わがいのち〉と——

近代我国の対外行動の原理を論ず

復刊第六号（平成四年五月二十日）

【講演】

大東亜戦争からの宿題——近代の超克——

大津事件と井上毅

【研究発表】

昭和聖断の歴史的意義

【論文】

「万世一系の天皇」について

安政五年の三社奉幣（上）

湾岸戦争に関する国際法的考案

——多国籍軍の軍事行動と国際連合憲章——

復刊第七号（平成四年十一月三日）

【研究発表】

明治御聖徳における日英同盟

上杉愼吉の政教関係論

【論文】

茂木 栄

永藤 武

中村 繁

長谷川三千子

木野主計

栗原 健

島 善高

武田秀章

佐藤和男

三木秀雄

新田 均

安政五年の三社奉幣（下）

『熱田大宮司千秋家譜』について

復刊第八号（平成五年七月三十日）

【講演】

明治天皇の巡幸

【論文】

御巫清直の神宮観

——特に神朝廷論を中心として——

広瀬淡窓・広瀬旭荘と洋学 序論

萬葉集に見る十二支

日本書紀「訓注」論

復刊第九号（平成五年八月十五日）

【講演】

明治改暦と日本の近代化

【研究発表】

近代的自由刑の成立と展開

——熊本藩徒刑と幕府人足寄場——

「遷宮史」

【論文】

漢代皇帝の喪葬儀礼の変遷

武田秀章

藤本元啓

村尾次郎

吉川竜実

三澤勝己

久野ちはや

西宮一民

岡田芳朗

高塩 博

中西正幸

渡部真弓

復刊第十号 (平成五年十二月五日)

【論文】

鎌倉期の神宮と伊勢神道

「式日式月式年」史料考

近世地方神職と和歌

——『巨勢總社千首』の一考察——

明治心学と宗教行政

——附、史料『心学社中教導職拜命一覽』——

——

復刊第十一号 (平成六年四月十五日)

【講演】

明治のキリスト者

【論文】

神宮の古殿地——その歴史哲学的考察——

古典に現はれた神武天皇即位記事をめぐる

明治神宮聖徳記念絵画館について

【研究発表】

復刊第十二号 (平成六年八月十五日)

【論文】

斯ノ道——詔勅・皇国史

【論文】

『大帝国論』の一考察

ルドルフ・オットーのヌミノーズ概念

——本居宣長の神の定義との比較——

七五三に見る通過儀礼の変容

牟禮 仁

復刊第十三号 (平成六年十二月五日)

【論文】

江戸・東京の寺子屋・家塾について

生命科学をめぐる諸問題について

明治初期の「神社」調べ

函館神道事務分局の組織と人物

【講演】

復刊第十四号 (平成七年四月十五日)

【論文】

式年遷宮を終えて

日清戦争以後百年

【論文】

加藤玄智論試稿

律令制下に於ける中臣氏存在形態

【論文】

復刊第十五号 (平成七年八月十五日)

【論文】

大日本帝国憲法と統帥権

中野裕三

石井研士

中澤伸弘

三宅守常

三宅守常

関山邦宏

井澤正裕

櫻井治男

松元信英

大濱徹也

森田康之助

鎌田純一

中村 榮

高森明勅

林 洋子

田丸徳善

岩崎欽司

朝倉直文

松浦光修

大日本帝国憲法と統帥権

大日本帝国憲法と統帥権

——或る知的傳統の斷絶について——

小堀桂一郎

大日本帝国憲法と日本国憲法

小田村四郎

三上参次の進講と昭和天皇

【論文】

——明治天皇の聖徳をめぐって——

高橋勝浩

橘曙覧の国学と和歌

足立尚計

伊勢神宮の防衛——幕末から大東亜戦争まで——

原 剛

明治神宮の鎮座地選定について

大丸真美

英国国王の憲法上の地位と機能

吉川 智

【史料】

——君主制維持の可能性を問う——

吉川 智

「三條教則」関係資料(三)

三宅守常

【史料】

「三條教則」関係資料(一)

三宅守常

復刊第十八号(平成八年八月十五日)

【講演】

レーリントク・オランダ代表判事の東京裁判批判

佐藤和男

【論文】

復刊第十六号(平成七年十二月十五日)

百地 章

【論文】

大嘗祭関連訴訟判決をめぐって

百地 章

地方藩政における伊勢御師の役割

久田松和則

——「尊王」と「至誠」で貫かれた生涯——

打越孝明

——肥前大村藩・宮後三頭大夫の場合——

八幡崇経

宮中鎮魂祭の変容

打越孝明

【史料】

「三條教則」関係資料(四)

三宅守常

——平安朝以降の歴史的変遷——

渡辺勝義

復刊第十九号(平成八年十二月十五日)

【史料】

加藤玄智の宗教学的・神道学的形成

島 蘭 進

【研究発表】

昭和天皇と近衛文麿

庄司潤一郎

「三條教則」関係資料(二)

三宅守常

【論文】

ポンスンビ博士と『英訳弘道館記』

照沼好文

【講演】

神道と樹木

矢野高陽

「三條教則」関係資料(七)

三宅守常

【史料】

「三條教則」関係資料(五)

三宅守常

復刊第二十二号(平成九年十二月十五日)

【論文】

復刊第二十号(平成九年四月十五日)

明治諸陵寮設置の一考察

武田秀章

【講演】

「日本国憲法の五十年

西 修

実類と中世神話

平沢卓也

——その過去・現在そしてこれから——

美術史上の「記念碑的繪畫」の位置

小堀桂一郎

「三條教則」関係資料(八)

三宅守常

【論文】

近代憲法における人間像について

八木秀次

復刊第二十三号(平成十年四月十五日)

【講演】

「三條教則」関係資料(六)

三宅守常

明治天皇の御真影を描いたE・キヨソーネの生涯

山口康助

復刊第二十一号(平成九年八月十五日)

江戸時代の徒刑制度

高塩 博

【研究発表】

明治天皇の伊勢行幸

吉川竜実

【論文】

——明治二年の御参拝次第を中心として——

明治期の倫理的唱歌の成立

雨宮久美

【論文】

神社祭祀における童子女

森本ちづる

——忘れられた教育勸語唱歌——

山西逸朗

——上賀茂社忌子についての一考察——

森本ちづる

【史料】

「三條教則」関係資料(九)

三宅守常

【史料】

復刊第二十四号（平成十年八月十五日）

【論文】

顕幽の相関相即とその接点

——日本文化の現象学的試論——

森田康之助

家庭祭祀の変遷にみる神と祖霊の関係

宮澤佳廣

伊達千広の歌論・神観・歴史観

佐藤一伯

神宮奉幣使に関する一考察

福島神人

【史料】

「三條教則」関係資料（十）

三宅守常

復刊第二十五号（平成十年十二月十五日）

【研究発表】

明治宮廷肖像画家キヨツソーネとウゴリーニ

リア・ベレッタ

【論文】

明治天皇の崩御と御製（上）

打越孝明

神宮の八座置神事について

草間孝廣

宇都宮藩による山陵御修復事業の実態

——県信編と戸田忠至を中心として——

阿部邦男

【史料】

「三條教則」関係資料（十一）

三宅守常

復刊第二十六号（平成十一年四月十五日）

【講演】

M E I J I ——世界かく震撼せり——

竹本忠雄

明治のこころ——その精神的出発点——

三宅守常

【論文】

「朝鮮神社」創建計画と初期総督府政

菅 浩二

——併合から三・一独立運動まで——

明治天皇の崩御と御製（下）

打越孝明

復刊第二十七号（平成十一年八月十五日）

【論文】

中世伊勢神宮史の諸問題

——文治建久年間を中心として——

平泉隆房

【研究ノート】

久延毘古神をめぐって

鎌田純一

【史料】

「三條教則」関係資料（十二）

三宅守常

復刊第二十八号（平成十一年十二月十五日）

【研究発表】

明治日本と赤十字

吹浦忠正

【論文】

織田萬の著作における政教関係類型論の変化について

新田 均

箕作麟祥とフランス法学

小笠原幹夫

末松謙澄の英国帝室諸礼調査について

堀口 修

——宮内省における近代皇室制度調査によせて——

【史料】

「三條教則」関係資料（十三）

三宅守常

復刊第二十九号（平成十二年四月十五日）

【講演】

明治を思う

時野谷滋

明治憲法の現代的意義

大原康男

【論文】

明治九年、三条実美の北海道・東北巡視

秋元信英

【史料】

「三條教則」関係資料（十四）

三宅守常

復刊第三十号（平成十二年八月十五日）

【例会発表】

神前結婚の歴史と課題

平井直房

【論文】

憲法の性格——英米日の場合——

久保憲一

日本文化と感性教育

高橋史朗

【史料】

「三條教則」関係資料（十五）

三宅守常

復刊第三十一号（平成十二年十二月十五日）

【論文】

「明治の精神」

——その崩潰の後に来たもの——

小堀桂一郎

「日本は神の國」首相発言問題の課題

上田賢治

近世祀職の思想的活動——祇園社を例として——

松本 丘

【史料】

「三條教則」関係資料（十六）

三宅守常

復刊第三十二号（平成十三年四月十五日）

【講演】

教育勅語——その背景と特質

坂本多加雄

明治神宮鎮座八十年を寿ぎて

中西正幸

【論文】

明治神宮の建築（上）

藤岡洋保

【史料】

「三條教則」関係資料（十七）

三宅守常

復刊第三十三号（平成十三年八月十五日）

【論文】

「実学」とは日本学——三つの開化を通して（一）——藤原 暹

明治神宮の建築（下）藤岡洋保

天地開闢と神明の顕現

——記紀別天神伝承の神学——

上田賢治

【史料】

「三條教則」関係資料（十八）

三宅守常

復刊第三十四号（平成十三年十二月十五日）

【研究発表】

神宮宮域林の環境林としての施業

木村政生

【論文】

「実学」とは日本学——三つの開化を通して（二）——藤原 暹

戦時下神道界の一樣相

——從軍神職と英靈公葬運動を中心として——

長友安隆

【史料】

「三條教則」関係資料（十九）

三宅守常

復刊第三十五号（平成十四年六月一日）

【講演】

日本の内と外

伊藤 隆

政治指導者としての東條英機

【論文】

本居宣長の「神の道」論

——「君は古への道の全体也」——

国家神道における「神」観の成立

松前における伊勢御師の活動

【史料】

「三條教則」関係資料（二十）

三宅守常

復刊第三十六号（平成十四年十二月一日）

【論文】

メディアの中の明治神宮

——テレビは神社に何を求めているか——

石井研士

『古事記』神話の一管見

——コトヨサシ・オヤ・コ——

武田秀章

島蘭進「国家神道」論の吟味（二）

「台湾の総鎮守」御祭神としての能久親王と開拓三神

——官幣大社台湾神社についての基礎的研究——

菅 浩二

【史料】

「三條教則」関係資料（二十一）

三宅守常

波多野澄雄

西岡和彦

佐々木聖使

草間孝廣

復刊第三十七号（平成十五年六月一日）

特集「儀礼文化の現在」

【論文】

現代日本における儀礼文化の持続と変容の理解に向けて

石井研士

近代化と地域度

——茨城県龍ヶ崎市の産育儀礼をめぐって——

佐々木美智子

〈性〉の通過儀礼——現代の「成人式」——

婚姻儀礼の変遷と現代

看取りと臨終の民俗

——石川県吉野谷村の事例から——

島蘭進「国家神道」論の吟味（二）

【史料】

「三條教則」関係資料（二十二）

三宅守常

明治という時代——江戸の悲願と明治政府——

【史料】

「三條教則」関係資料（二十三）

復刊第三十九号（平成十六年六月一日）

【講演】

日本のアングロ・アメリカン外交

【論文】

戦後における神前結婚式の隆盛と儀礼の交代

島蘭進「国家神道」論の吟味（三）

明治天皇「聖徳録」の誕生

【講演】

美貌の皇后の御歌と御姿

【史料】

「三條教則」関係資料（二十四）

三宅守常

水谷三公

三宅守常

岡崎久彦

石井研士

新田均

佐藤一伯

小堀桂一郎

三宅守常

復刊第三十八号（平成十五年十二月一日）

【論文】

「顕生魂」説の原由——橋守部の神学——

『神道雑々集』研究序説

アーネスト・サトウの神道観

【講演】

中野裕三

新井大祐

中西正史

復刊第四十号（平成十六年十二月一日）

特集「近世・近代の国学」

【論文】

鈴木重胤と神祇祭祀——神学確立過程に関する一考察——

国学の天体論と神代

中野裕三

中野裕三

——中庸・篤胤の論とそれにかかわる論争を焦点として——

遠藤 潤

幕末期における大祓と国学者——六人部是香を中心に——

星野光樹

大國隆正の学風について

——「孝」による世界観と実学的傾向の一考察—— 中村 聡

明治国家形成と近代的国学構想

——古典講習科の展開・終焉と國學院の設立—— 藤田大誠

近代神道学者の国学観 松本久史

【研究ノート】

門脇重綾の『神国考』について 武田秀章

【史料】

「三條教則」関係資料（二十五）雑誌の部（二） 三宅守常

復刊第四十一号（平成十七年六月一日）

特集「日露戦争百周年記念特集（二）——近代国家の礎——」

【講演】

近代皇室制度の形成

——副島種臣を手がかりとして—— 島 善高

神仏分離・廃仏毀釈の背景について

【論文】 阪本是丸

明治期における物の価値と蜷川式胤 鈴木廣之

来日外国人のみた日露戦争

——ラフカディオ・ハーンと戦時下の日本——

近現代の皇室経済制度に関する諸問題

【史料】 川田敬一

「三條教則」関係資料（二十六）雑誌の部（二） 三宅守常

復刊第四十二号（平成十七年十二月一日）

特集「日露戦争百周年記念特集（三）——明治人の気概——」

【講演】

日露戦争と明治人の気概

【論文】

日露戦争における本土防衛

日露戦争とその後の日本美術界

——パリ留学と大陸進出と——

吉田熊次教育学の成立と教育勅語

金子彌平——ある「明治人」の軌跡——

葦津耕次郎の政治観

明治後期の天皇・皇后像に関する一考察

復刊第四十三号（平成十八年十一月三日）

特集「近現代の神道・日本文化」

【しあいさつ】

小泉 凡

川田敬一

三宅守常

入江隆則

原 剛

林 洋子

高橋陽一

金子宗徳

西矢貴文

佐藤一伯

加藤玄智博士逝去四十年に本会功労者を偲ぶ

外山勝志

【巻頭言】

特集「近現代の神道・日本文化」に寄せて

安蘇谷正彦

【論文】

神道の根拠

——homo religiosus の擁護と再生のために——

小堀桂一郎

近現代の家族と神社

森岡清美

近現代の山岳宗教と修験道

——神仏分離令と神道指令への対応を中心に——

宮家 準

キリスト者にみる日本の目——矢内原忠雄を場として——

大濱徹也

ソウル・南山の神域化——植民都市と神社境内——

神前結婚式にみる「家」の変貌と個人の創出

青井哲人

神道と国家神道・試論

——成立への問いと歴史的展望——

石井研士

近代の文化財保護と考古学

島菌 進

近代の神社建築

時枝 務

明治初年の神仏判然令と近代神道の創出

藤岡洋保

ジョン・ブリン

「明治天皇紀」編修と近現代の歴史学

堀口 修

近現代における「カミ」

藤原 暹

——生活・生命主義との連関——

禊教独立前史——教祖直門坂田鐵安の活動——

荻原 稔

幕末の国学者 物集高世

奥田惠瑞・秀

伊東忠太の明治神宮社殿構想

大丸真美

——神社建築観の推移——

昭和十年代文教政策に於ける神祇問題

長友安隆

——神祇府構想と神社制度研究会を中心に——

事業家としての葦津耕次郎

西矢貴文

大正・昭和戦前期における祭政一致観の相克

藤田大誠

——八神殿奉斎問題をめぐって——

明治聖徳記念學會と加藤玄智

宮本誉士

——學會創立前後を中心として——

【研究ノート】

軍人が祀られている神社

原 剛

【資料】

近代の神社建築に関する一事例

——神田神社社殿再建経緯と『神田神社再建工事概要』翻刻を
通して——

岸川雅範

【誌上講演】

「神社のいる近代史」の試み

山口輝臣

【随想】

特別展「神々と出遭う——神奈川の神道美術——」を終えて

吉田茂穂

——

——

——

——

明治神宮の杜の姿

沖沢幸二

【書評】

松本久史著『荷田春満の国学と神道史』

中野裕三

小川原正道著『大教院の研究——明治初期宗教行政の展開と挫折——』

戸浪裕之

【紹介】

石井研士著『日本人の一年と一生』ほか十冊

企画・編集委員会

【翻刻】

埋木廼花（高崎正風編）

企画・編集委員会

復刊第四十四号（平成十九年十一月三日）

特集「日本人の靈魂觀と慰靈」

【巻頭言】

特集号に寄せて

伴五十嗣郎

【論文】

神道の生死觀と神道古典

安蘇谷正彦

鎮魂の伝統と現代

——ひとの靈魂を祀る風儀との関連に配慮しつつ——

高森明勅

たまのゆくへ——國學者の考へた死後の世界——

中澤伸弘

江戸時代における天皇の葬法

野村 玄

近世大名家（祖神）考——先祖信仰の政治化——

高野信治

靖國信仰に見る日本人の靈魂觀

小堀桂一郎

近代日本と戦死者祭祀

今井昭彦

近代日本における「怨親平等」觀の系譜

藤田大誠

政党政治家胎中楠右衛門と二つの憲政碑

——憲政功勞者の慰靈と政党政治の再生への試み——

高橋勝浩

折口信夫の靈魂論覚書

小川直之

近代日本の仏教における死者論

——上原專祿を中心に——

末木文美士

日本人の死のかたち

——死者と共にある暮らし——

波平恵美子

民俗学からみる慰靈と追悼

新谷尚紀

現代日本人の魂のゆくへ

石井研士

死者の幻影——民俗信仰と心靈研究の間——

津城寛文

靖國神社みたま祭の成立と発展

所 功

日本の靈性とキリスト教

芦名定道

キリスト教美術にみる靈魂觀

——古代地中海世界からキリスト教中世へ——

小池寿子

国際法上の最重大個人犯罪と国際刑事裁判所

佐藤和男

ボンソンビ博士の神道研究

——とくに御神魂みたまの理解について——

照沼好文

西洋人の神道発見

——富士山におぼえる畏敬の念について——

平川祐弘

開——

佐藤一伯

【シンボリズム】

日本人の靈魂観と慰靈

新田 均・武田秀章・中山 郁・阪本是丸

【翻刻】

陰陽道と神道——歴史的視点から見た——

林 淳・弓山達也・加瀬直弥・岡田莊司

明治孝節録 卷一・卷二（近藤芳樹著）

宮本營士

【誌上講演】

曆から読み解く日本人の心

岡田芳朗

復刊第四十五号（平成二十年十一月三日）
特集「維新と伝統」

【研究ノート】

靈魂と現存在・実存

田邊建治郎

【卷頭言】

【随想】

神道津和野教学と現代

加藤隆久

——明治維新百四十年・本会再発足二十年に思う——

鎌田純一

乃木將軍が経験した出會ひ

高山 亨

【論文】

学徒慰靈碑余話

益井邦夫

維新と傳統

【書評】

本康宏史著『軍都の慰靈空間——国民統合と戦死者たち——』

菅 浩二

——兩概念の相互關係及びその綜合——

小堀桂一郎

今井昭彦著『近代日本と戦死者祭祀』

草間孝廣

——每朝御拜「石灰壇」祭祀の終焉として——

石野浩司

矢野敬一著『慰靈・追悼・顕彰の近代』

高原光啓

夜明け前の御嶽山——御嶽神社と明治維新——

中山 郁

平泉隆房著『中世伊勢神宮史の研究』

小野善一郎

山陵修補事業にみる維新と傳統

阿部邦男

阪本是丸編『国家神道再考——祭政一致国家の形成と展

——蒲生君平の谷森善臣に対する影響を含めて——

阿部邦男

明治天皇の御修学

近藤啓吾

新渡戸稲造における維新と伝統

——日本論・神道論を手がかりに——

佐藤一伯

伊東忠太と「日本建築」保存

清水重敦

「明治天皇紀」編修をめぐる宮内省臨時編修局総裁人事問題
と末松謙澄

堀口 修

柳田國男の神道研究

茂木 栄

入澤宗壽の神道教育

——神道教育の類例化への試み——

中道豪一

「禊教本院」の展開

荻原 稔

明治神宮の復興

大丸真美

【シンポジウム】

維新と伝統——近代日本の〈宗教〉——

島蘭進・山口輝臣・菅浩二・武田秀章

【講演】

近代の国民教化と三条教則

——『三条教則衍義書資料集』（全二巻）刊行に寄せて——

三宅守常

福沢諭吉における維新と伝統

小川原正道

【史料】

近代における祭神・由緒の考証に関する一事例

——大崎昌庸『神田神社由来全』の史料紹介を通して——

【研究ノート】

平田篤胤の医学哲学

市川 修

【講演】

明治を開いた人々を作り上げたもの
花くはし……

船橋晴雄

——明治天皇御製と義烈二公の遺勲——

照沼好文

維新からのよき伝統

——明治天皇幸手行在所と埼玉県への地方巡幸今昔——

大熊晋一

明治天皇と東郷平八郎

——日本海海戦前夜のエピソード——

嶋田耕一

尊王の心情研究

——三島由紀夫の「英霊の声」と葦津珍彦の怨霊鎮めの評——

稲葉 稔

【書評】

高木博志著『近代天皇制と古都』

藤田大誠

安丸良夫著『文明化の経験——近代転換期の日本——』

宮本誉士

阪本是丸著『近世・近代神道論考』

西岡和彦

藤田大誠著『近代国学の研究』

遠藤 潤

遠藤潤著『平田国学と近世社会』

中川和明

【紹介】

松尾正人『木戸孝允』ほか十二冊

企画・編集委員会

【翻刻】

明治孝節録 卷三・卷四（近藤芳樹著）

宮本誓士

復刊第四十六号（平成二十二年十一月三日）

特集「日本の法制度・法文化／東京奠都百四十年」

【巻頭言】

明治憲法發布百二十年に思う

伊藤 隆

【論文】

慣例法の生成過程

——「關東御成敗式目」の劃期的意義——

小堀桂一郎

伊藤博文と明治憲法

——憲法制定におけるドイツ人の寄与——

堅田 剛

明治初年代における天皇と神宮

中西正幸

文明・立憲制・国民政治

——伊藤博文の政治思想——

瀧井一博

遺失物法と文化財保護

「元始祭」並びに「紀元節祭」創始の思想的源流と二祭処遇

時枝 務

の変遷について

大岡 弘

律令法における皇位継承

——女帝規定の解釈をめぐって——

宮部香織

明治期「村の鎮守」の植生と地域社会

——東京都多摩地域の地域史料をてがかりに——

畔上直樹

京都御所から明治宮殿へ

——継承された「劍璽之間」の来歴——

石野浩司

東京奠都と神田祭

——明治初年の神田祭の変遷を素描する——

岸川雅範

御歌所長高崎正風の教育勅語実践運動

——彰善會と一徳會——

宮本誓士

徳川時代中期の衣紋道高倉家の門人の一考察

——『御門弟名籍』をめぐって——

中澤伸弘

宮本重胤「婦人神職任用論」に関する小考

小林健三の神道論についての考察

小林晃枝

——昭和三〇年代を中心に——

中道豪一

【シンポジウム】

日本の法制度と神道文化

岡田莊司・阪本是丸・牟禮仁・武田秀章

【講演】

井上毅における伝統と近代

——「シラス」論を中心に——

齊藤智朗

【史料紹介】

「明治三十七年二月～八月 聯合艦隊司令長官東郷平八郎

日記」について

堀口 修

本多辰次郎『北支満鮮旅行記』

高橋勝浩

明治神宮所蔵「加藤玄智博士生祠研究資料」

教育に於ける道德と宗教

——二者の辨別は必須にして且つ可能なるか——小堀桂一郎

——紹介と若干の考察——

佐藤一伯

東宮「倫理」担当杉浦重剛の「教育勅語」御進講 所 功

【随想】

教育勅語の徳目「忠孝」をめぐる教育史的流布説の再考察

鶴牧版『史記評林』に想ふ

近藤啓吾

キリスト者唯一の教育勅語衍義書 長江弘晃

——『明治天皇の御修学』補遺——

近藤啓吾

日本教育史の成立と国学

三宅守常

近現代の憲法と政教関係

百地 章

——日本教育史略、文芸類纂、古事類苑、日本教育史の關係——

高橋陽一

私の東京と古社名刺

大熊晋一

昭和初期文部省思想行政と神道界

【書評】

高橋美由紀

国民学校における「敬神崇祖」教育 長友安隆

【紹介】

高橋美由紀

——教育審議会の解釈に着目して——

井上兼一

國學院大學日本文化研究所編『法文化のなかの創造性』ほか八冊

教育基本法と教育勅語

井上兼一

【翻刻】

企画・編集委員会

——教育学界の動きと連動して——

杉原誠四郎

硯海の一勺・扇のことば（福羽美静述）

企画・編集委員会

教育問題と神社神道の立場

杉原誠四郎

【翻刻】

企画・編集委員会

——「神道指令」症候群」の脱却に向けて——

鈴木斎彦

硯海の一勺・扇のことば（福羽美静述）

企画・編集委員会

——「神道指令」症候群」の脱却に向けて——

鈴木斎彦

復刊第四十七号（平成二十二年十一月三日）

——「神道指令」症候群」の脱却に向けて——

鈴木斎彦

特集「近代日本の教育と伝統文化」

——「神道指令」症候群」の脱却に向けて——

鈴木斎彦

【巻頭言】

企画・編集委員会

教育勅語の御渙発百二十年を記念して

萩原 稔

教育勅語の御渙発百二十年を記念して

阪本是丸

——明治五・六年における神官教導職の衍義書を中心に——

戸浪裕之

【論文】

企画・編集委員会

——明治五・六年における神官教導職の衍義書を中心に——

戸浪裕之

聖諭記より拜す大御心

鎌田純一

神道教育研究における近代石門心学の位置づけ

——天地開闢解釈と皇室との関連——

中道豪一

「明治天皇紀」の叙述をめぐる問題について

【書評】
藤本頼生著『神道と社会事業の近代史』

畔上直樹

——日清戦争開戦時の宣戦奉告問題を事例として——

【紹介】

國學院大學研究開発推進センター編『史料から見た神道』

明治維新期の鎮魂祭

堀口 修

明治期における香取神宮の祭祀改変について

山口剛史

附祭・御雇祭の展開に関する序論

吉野 亨

——江戸・神田祭に焦点を当てて——

岸川雅範

【シンポジウム】

近代日本の教育と伝統文化

「安政条約廃棄百年」を巡って

岡崎久彦

安蘇谷正彦・天野郁夫・齊藤智朗・藤田大誠・高

橋陽一・三宅守常・阪本是丸

【講演】

明治皇室典範制定の意義

岩倉使節團の見た米歐の光と翳

小堀桂一郎

——律令制から立憲制へ——

鳥 善高

今求められる伝統・文化教育

鹿鳴館外交と欧化政策

犬塚孝明

——社会科学教育の立場から——

安野 功

【史料紹介】

大國隆正著『音図神解』の翻刻と紹介

上西 亘

【随想】

林原美術館所蔵岡山藩学校署遍本紙と現代の学校教育

『香取新報』に見る大正一〇年外遊時の皇太子裕仁親王

堀口 修

内池英樹

GHQの神道観に関する一考察

佐藤一伯

——『日本の宗教』を介して——

『五箇条の御誓文』から『教育勅語』へ

——明治の開国と昭和の開国——

平川祐弘

明治天皇の服制と天皇像

——「見せる天皇」と「見せない天皇」——

刑部芳則

明治初期の歌御会始の国民の詠進

——『同風集』をめぐる——

中澤伸弘

田島小学校における体験教育考

——神道教育研究の視点から——

中道豪一

宮内省諸陵頭山口鋭之助の事績と思想

【研究ノート】

東郷茂彦

昭憲皇太后基金の創立とその背景について

【講演】

小林晃枝

占領と教育改革

——占領軍より日本側の責任が大きい——

杉原誠四郎

【随想】

富士秋霽——吉田茂翁の志操——

照沼好文

【書評論文】

「国家神道」概念の有効性に関する一考察

——島蘭進著『国家神道と日本人』の書評を通して——

藤田大誠

【書評】

櫻井治男著『地域神社の宗教学』

板井正斉

畔上直樹著『村の鎮守』と戦前日本——「国家神道」の地域

社会史——

藤本頼生

佐藤一伯著『明治聖徳論の研究——明治神宮の神学——』

藤田大誠

中野裕三著『国学者の神信仰——神道神学に基づく考察——』

武田幸也

【紹介】

神社本庁総合研究所監修・神社新報創刊六十周年記念出版

委員会編『戦後の神社・神道』ほか十冊

【翻刻】

みくるまのあと（小出繁著）

戸浪裕之

復刊第四十九号（平成二十四年十二月三日）

特集「明治天皇とその時代——明治天皇崩御百年・明治天皇御

生誕百六十年——」

【巻頭言】

世界史から見た明治時代

小堀桂一郎

【論文】

明治精神史への一の提案

——御製と詔書に即しての構想——

小堀桂一郎

静岡県の明治天皇聖蹟

小田部雄次

明治天皇の国史に対するご認識について

——神武天皇から南北朝期までの人物評価を中心に——

勝岡寛次

宮中顧問官長崎省吾が語る明治天皇

——昭和二年一〇月一日実施の談話聴取から——

堀口 修

青山葬場殿から明治神宮外苑へ

——明治天皇大喪儀の空間的意義——

藤田大誠

本居宣長とヤーコプ・グリム——二つの『国学』——

堅田 剛

石門心学者川尻宝岑の教育勅語衍義書をめぐって

三宅守常

地方神職会会報にみられる神宮大麻頒布の諸相

藤本頼生

吉田家の諸社研究にみられる家記利用について

——『諸神根源抄』と『吉田家日次記』の関わりを中心に——

新井大祐
萩原 稔

大成教禊教の成立過程と変遷

——その基礎的研究と再評価への試み——

中道豪一

近代祭祀制度における特殊神饌の取り扱いについて

——香取神宮・彌彦神社を例に——

吉野 亨

近代神社行政における神社境内の公園的性格

河村忠伸

【シンポジウム】

明治天皇とその時代

——明治天皇崩御百年・明治天皇御生誕百六十年——

伊藤之雄・武田秀章・堀口修・

ジョン・ブリーン・櫻井治男

【講演】

明治仏教と西洋文明

——西本願寺の西洋視察——

戸浪裕之

明治の御歌所歌人

——明治短歌史における旧派と新派——

宮本誉士

【誌上講演】

教育勅語と建国の思想

【随想】

御製に示された遊びの伝統

私の好きな国「日本」、尊敬する人「明治天皇」

ドナルド・キーン

明治天皇の和歌に関して

中澤伸弘

【書評論文】

ジョン・ブリーン著『儀礼と権力―天皇の明治維新』を吟味する——「語り」によって隠されたものは何か——

新田 均

A Critique of Girei To Kenryoku: Tennō no Meiji Ishin (Ritual and Power: The Emperor's Meiji Restoration) by John

Breen—What "Narrative" Conceals

Hiroshi Nitta

【書評】

渡邊卓著『日本書紀』受容史研究——国学における方法——

松本 丘

宮本誉士著『御歌所と国学者』

上西 亘

板井正斉著『ささえあいの神道文化』

室田 一樹

【紹介】

小田部雄次著『昭憲皇太后・貞明皇后』ほか二十一冊

企画・編集委員会

復刊第五十号（平成二十五年十一月三日）

特集「神社の造営と祭祀——伊勢と出雲を中心に——／昭憲

皇太后崩御百年——皇太后と女子教育・社会福祉・洋装文

化——」

【巻頭言】

明治の精神

鎌田純一

【論文】

式年遷宮と「永遠」の觀念

小堀桂一郎

——西洋哲學との對比の下に——

伊勢神宮と持統天皇
——遷宮についての伝承分析学(日本民俗学)からの一小論——

新谷尚紀

大宮司大中臣精長の時代と遷宮

——近世前期の神宮における古儀復興の精神——

音羽 悟

近代の神宮式年遷宮

神宮式年遷宮の建築的意義について

中西正幸

中・近世の神宮式年遷宮における建築工匠の活動形態につ

いて

浜島一成

神宝の成立——組成の意味と背景——

笹生 衛

古代の社殿作りと神宝奉獻の意義

——奈良時代末期から平安時代前期を射程として——

加瀬直弥

近代の伊勢参宮と宇治山田の旅館業

谷口裕信

明治維新前後の神宮神職家のイエ儀礼

濱千代早由美

幕末の出雲大社における朝廷守護の思想

——富永芳久『寶劍攻證』をめぐる——

中澤伸弘

明治神宮・日本近代を象徴する空間

——独自性と普遍性の共存——

藤岡洋保

「昭憲皇太后実録」の編修について

堀口 修

宮中の西欧化と昭憲皇太后

小田部雄次

昭憲皇太后の教育奨励に関する再検討

真辺美佐

昭憲皇太后が東京女子師範学校に遺したものの

奥田 環

宮中出仕後の税所敦子

——明治天皇・昭憲皇太后との関連に注目して——

長福香葉

実践躬行——下田歌子 女子教育への道——

大関啓子

下田歌子の宮中出仕と歌子の名下賜前後の考察

小林 修

昭憲皇太后の事績と今日的意義

吹浦忠正

——昭憲皇太后基金を中心に——

明治期の赤十字看護教育

吉川龍子

昭憲皇太后と洋装

植木淑子

明治宮廷奥向攷——賜りの人形を通して——

六戸忠男

堀秀成と宣教使

小林威朗

貞明皇后への御進講における寛克彦の神道論

中道豪一

摘——

「皇族ノ降下ニ関スル施行準則」について

阿部 寛

【シンポジウム】

神社の造営と祭祀——伊勢と出雲——

櫻井治男・中西正幸・西岡和彦・加瀬直弥・錦田

剛志・茂木貞純

【講演】

若き日の明治天皇——人君の学としての論語——

坂本一登

第六十二回式年遷宮を迎へて

小堀桂一郎

【研究ノート】

遷宮神宝使をめぐって

藤森 馨

神宮教の教説に関する一考察

——藤井稜威の著作を中心に——

武田幸也

昭憲皇太后と津田梅子

——華族女学校での接点を中心に——

高橋裕子

明治期における皇室の福祉事業

——日本赤十字社の災害救助との関わりから——

宮城洋一郎

【資料】

神宮遷宮「常若」論抄

牟禮 仁

【随想】

地域神社で行われる造替遷宮

櫻井治男

遷宮の御用材を育てる神宮宮域林

——御杣山の復活を目指して——

金田憲明

御装束神宝の調製

采野武朗

神宮式年遷宮の我國の伝統文化の原点としての意義

——ブルーノ・タウトの視点からの考察——

中村光彦

昭憲皇太后と華族女学校

税所敦子の歌の淵源

米窪明美

【翻刻】

繫暉日記（香川敬三著）

佐伯裕子

高野裕基